

図書館だより

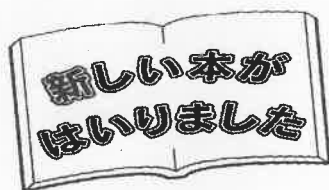
令和3年9月 発行

大阪市立堀江中学校



2学期が始まり、まだまだ暑い日が続いていますね。9月23日、秋分の日には、昼と夜の長さが等しくなります。この日をさかいに昼の長さが短くなっていき、日中の気温も目立って低くなり始めます。秋の彼岸の中日でもあり、日本は法律で「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」日と定めています。暑さもあと少し…。

地球環境に負荷がかからない涼み方を考えて「妖怪」の存在に頼ることにしました。今回は「妖怪」特集です！



『ゆる妖怪カタログ』

妖怪文化研究会 著



この本には、究極に恐ろしい妖怪は紹介されていません。その書名通りに、ゆるくて、どこか隙のある妖怪がほとんどです。

なかでも目撃してみたい!と思ったのは、静岡県のご当地妖怪“山男”です。

反対に目撃したくない!のは、東北地方の山中に出没するという妖怪“山地々(やまちち)”です。山地々の紹介文を寝る前に読むと本当に涼しくなりましたよ。

あなただけの涼しくなる妖怪を見つけてみませんか。

『現代版 絵本

御伽草子 付喪神』

町田康(文)石黒亜矢子(絵)



こちらは、妖怪が登場する古来の絵巻物を現代語で表現した絵本です。人間に長く使われてきた器物たち(魂をもっています)が、打ち捨てられた恨みをはらすため人間に復讐を試みるというものです。復讐の結果が、いかになるかは、ぜひ読んでみてください。

独特な文体で書かれていて、時にホラー小説のような生々しい表現もあります。絵も甘くなくて文体にしっくりときます。そうです、もうお気づきですね。私には、涼しくなる効果がありましたよ。(妖怪に対する感度は、まだまだ未熟です。)

【クイズ】

1828年9月17日(文政11年8月9日)夜半、猛烈な台風が西日本を襲い、帰国直前のオランダ船が座礁。この船で帰国する予定だったドイツ人医師とは誰？

ア. ケンペル

イ. シーボルト

ウ. ツンベルク